

但馬地域公共交通計画の施策推進のための主な取組（令和 6 年度）

1. 兵庫県	1
施策⑳ バス運転手・タクシー運転手確保に向けた PR 活動の実施	
2. 豊岡市	2
施策⑦ 住民等が主体となった地域交通確保の取り組みへの支援	
施策③③ 公共交通への利用転換の意識啓発（モビリティ・マネジメントの実施）	
3. 養父市	3
施策⑤ デマンド型交通の導入	
施策⑨ 新技術を活用した移動手段の検討	
4. 朝来市	4
施策③ バス路線の再編・再構築	
施策⑤ デマンド型交通の導入	
5. 香美町	5
施策⑥ タクシーの活用	
施策⑯ 駅待合環境の改善、駅舎の整備・改築、バス待合環境の改善	
6. 新温泉町	6
施策③② 鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施	
施策③③ 公共交通への利用転換の意識啓発（モビリティ・マネジメントの実施）	
7. 全但バス	8
施策⑭ 鉄軌道車両、バス車両、タクシー車両のバリアフリー化	
施策⑳ バス運転手・タクシー運転手確保に向けた PR 活動の実施	

基本施策 9.公共交通を担う人材の確保

施策⑳ バス運転手・タクシー運転手確保に向けたPR活動の実施

バス・タクシー運転手確保に向けた取組

1. 地域公共交通事業者の人材確保支援

公共交通ネットワークを維持するため、人材確保に取り組む路線バス・タクシー事業者の第2種免許取得費用及び受験資格特例教習受講費用の一部を支援【R6新規】

- 対象 象: 県内の路線バス・タクシー事業者
- 対象経費: 大型・第2種免許取得費用、受験資格特例教習受講費用
- 負担割合: 国: 県: 事業者 = 2: 1: 1 (補助率1/4)
- 補助上限: バス: 150千円/人、タクシー: 100千円/人

2. バス運転手の魅力発信

① 「兵庫五国 移住・交流フェア」への出展【R6年度】

東京・大阪で開催する「兵庫～五国～移住・交流フェア」において、県内バス事業者のバスドライバー就職情報を発信

② 「バスドライバー合同就職説明会」×「移住・定住支援」【R6年度】

県バス協会主催「バスドライバー合同就職説明会2024」において、県市の「移住相談ブース」を設置



R6.11.16(土)兵庫五国 移住・交流フェア

基本施策 2.地域の実情に合わせた交通手段の導入

施策⑦ 住民等が主体となった地域交通確保の取り組みへの支援

但東・高橋地区マイカー乗り合い交通「のんなるカー」の実証運行

<取組状況>

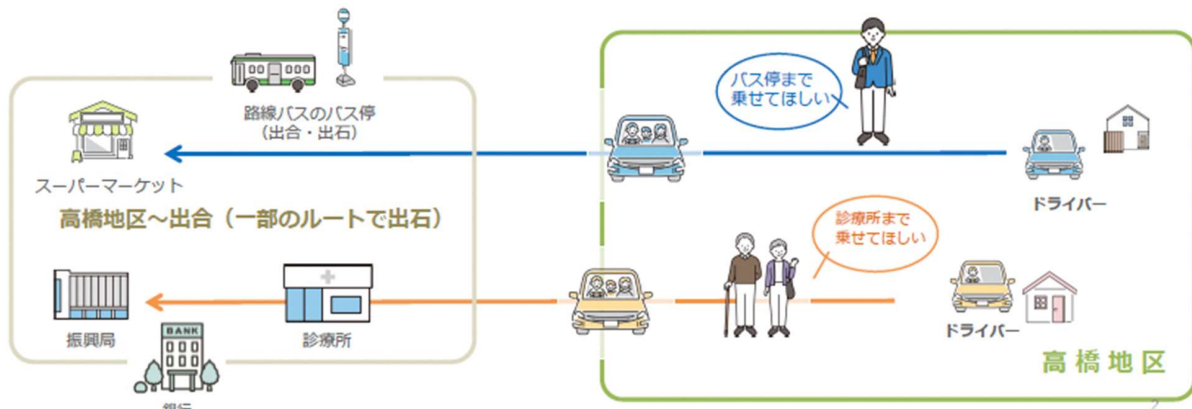
- 地域コミュニティが主体となり、同じ方向に移動したい高橋地区の住民同士が、マイカーに乗り合い一緒に移動する仕組みとマッチングシステムを試験的に導入。

<課題>

- 持続可能な運営体制の構築（コース・ダイヤ設定や事務局員・地域ドライバーの確保）

<今後の取組予定>

- 高橋地区住民の将来の移動を支える仕組みになり得るか評価・検証を行う。



基本施策 10.公共交通の利用促進

施策③③ 公共交通への利用転換の意識啓発（モビリティ・マネジメントの実施）

トライやる・ウィーク交通費支援

<取組状況>

- 2023年度実施した「JR山陰本線利用促進策創出ワークショップ」からの創出事業。
- 小中学生の公共交通に乗る「きっかけ」をつくることや「地域の公共交通に対する問題意識の喚起」を目的に、市内の中学校2年生が実施するトライやる・ウィークにおいて、体験活動先へ移動する際に公共交通を利用した場合、利用した公共交通の費用支援を実施。
- 交通事業者からも協力を得て、事前に乗車する区間の乗車券を配布。

<効果>

- 延べ93人の生徒が利用（JR24名、路線バス61名、市営バス8名）
- 豊岡市立豊岡南中学校の生徒（14名）がJRを利用し、竹野地域の事業所を訪問するのは初めての取り組みとなった。

<次年度の取組予定>

- 公共交通利用の意識付けとしての意義も大きいため、来年度も継続して実施予定。



広報とよおか7月号表紙

令和6年度の主な施策の状況（養父市）

1 自動運転バス実証事業

- 【概要】**
事業内容 養父市においても、「ドライバー不足の解消」、「高齢者の移動手段の確保」など持続可能な公共交通体系の構築が大きな課題であり、買物や通院といった日常生活において欠かせない移動手段を確保することが重要となっており、その対応策の1つとして自動運転バスの実証実験を実施。
- 特徴** JR八鹿駅を出発点とするルートとし、新モビリティを活用して日常利用の利便性向上と2次交通の利用促進による観光客の増加を目指す。
- 実施体制** 養父市、BOLDLY（株）、全但バス（株）、やぶ市観光協会
- 実施期間** 令和7年1月27日（月）～3月31日（月）予定
- 【実施状況・課題】** 1月27日からの運行に向け調整中。
- 【今後の展開】** 令和7年度は車両を増やし、運行ルートを道の駅ようか但馬蔵まで延長することを計画しており、日常利用に加えて観光利用の必要性などを検証する。



2 やぶくる運行エリア拡大

- 【概要】**
事業内容 平成30年5月から大屋、関宮地域においてエリア完結型で運行してきた自家用有償観光旅客等運送事業（通称「やぶくる」）が、令和6年4月1日より、大屋、関宮地域を発着点として、八鹿・養父地域に存在するJR八鹿駅などの6施設までのスポット運行を開始。
- 特徴** 新たな運行エリアにJR八鹿駅を追加することで、日常利用の利便性向上と2次交通の利用促進を図る。
- 実施主体** NPO法人養父市マイカー運送ネットワーク
- 実施期間** 令和6年4月1日～
- 実施結果** 617名（R6年11月末時点：やぶくる利用人数）R5年11月末時点：288名
- 【実施状況・課題】** エリア拡大により、利用人数は令和5年度対比で約2倍に増加したが、スポット利用の多くは病院となっており、JR八鹿駅利用はまだ限定的な状況。
- 【今後の展開】** 更なる利用者増に向け、引き続き広報周知に努める。



基本施策 1.地域路線の再編

基本施策 2.地域の実情に合わせた交通手段の導入

施策③ バス路線の再編・再構築

施策⑤ デマンド型交通の導入

朝来市デマンド型乗合交通（あさGO）の導入

＜今年度の取組＞

- 第3次再編指針（令和5年12月策定）に基づいて、市内を3つのエリアに分けて段階的にデマンド型乗合交通を導入。併せて、デマンド型乗合交通導入後の路線バスの再編について検討。

○生野エリア

令和6年 4月1日～ 試験運行開始

令和6年10月1日～ 本格運行開始

○朝来エリア

令和6年10月1日～ 試験運行開始

令和7年 4月1日～ 本格運行開始（予定）

○和田山・山東エリア

令和7年 4月1日～ 試験運行開始（予定）

令和7年10月1日～ 本格運行開始（予定）

＜今後の課題＞

- 各エリアでの運行状況等を分析し、課題の把握、整理及び今後の改善点等の検討を行う。
- 路線バス（幹線）との接続向上を図り、幹線の維持・充実に向けて路線バスの再編協議を行う。



朝来エリアのデマンド型乗合交通出発式（R6.10.1）



利用案内（冊子）

基本施策 2.地域の実情に合わせた交通手段の導入

施策⑥ タクシーの活用

障害者手帳等所有者へのタクシー割引事業の実施

<取組状況>

- ・ 障害者手帳等所有者へのタクシー割引事業を実施

<事業概要>

- ・ 助成対象者 身体障害者手帳等所有者
- ・ 助成金額 助成対象者が町内で利用したタクシー料金の半額
- ・ 利用実績 668件 <令和6年12月末時点>
- ・ 利用者の声
「買い物等で日常的に利用するので非常に助かる」

<課題>

- ・ タクシー会社の営業所がない地域での運用方法

<次年度の取組予定>

- ・ 引き続き助成制度を運用し交通弱者の移動支援を行う

基本施策 5.交通結節店における利便性の向上

施策⑯ 駅待合室環境の改善、駅舎の整備・改築、バス待合環境の改善

駅待合環境の改善

<取組状況>

- ・ 香住駅の待合環境の改善と地元住民の鉄道利用の意識を醸成し、鉄道の日常利用の増加と駅の賑わい創出を目的にピアノを設置するとともに、「ステーションライブラリープロジェクト」を実施

<事業概要>

- ・ 待合室利用者が自由に利用できる「駅ピアノ」を設置
- ・ 香住駅待合室に設置した本棚にプロジェクト参加者が思い入れのある本や誰かに読んでもらいたい本を持ち寄り「ステーションライブラリー」を設置し、駅利用者と地域住民との繋がりをつくるプロジェクト

<次年度の取組予定>

- ・ 香住駅と他の駅との繋がりづくりについて検討を進める
(香住駅以外の駅への図書返却ボックスの設置 など)



基本施策 10.公共交通の利用促進

施策③ 鉄道の利便性向上、利用者の増加の取組みの実施

鉄道往復利用支援事業

<取組状況>

- ・ 浜坂駅から豊岡駅、城崎温泉駅、鳥取駅まで往復で利用する町民に対して、片道分の運賃を支援する事業を実施
- ・ 7月～9月の計4日実施し、75人が利用
- ・ 令和6年度より「特急はまかぜちよい乗り事業」、「鉄道往復団体利用支援事業」も実施

<効果>

- ・ 町民の鉄道利用のきっかけづくりに繋がる
- ・ JR山陰本線の利用促進に繋がる

<課題>

- ・ 鉄道を継続的に利用してもらえる仕組みづくりが必要

<次年度の取組予定>

- ・ 鉄道往復利用支援事業の継続実施
- ・ より利用してもらえる仕組みの検討

事業実施の様子



基本施策 4.公共交通を安全安心に利用できる環境の整備

施策③ 鉄道の利便性向上、利用者の増加の取組みの実施

特急はまかぜ利用助成金事業

<取組状況>

- ・ 町民が特急はまかぜを利用した際の乗車券等の運賃を助成
- ・ 浜坂駅を発着とした乗車券及び特急券等の運賃総額の3割を助成

<効果>

- ・ 特急はまかぜの利用促進
- ・ 新たな需要（利用者）の発掘
- ・ 利用者数：249人（令和6年12月末時点）

<課題>

- ・ 特急はまかぜのダイヤ編成（始発便及び最終便が浜坂駅発着ではない、長時間の乗継待ち）で利用を諦める声もいただいている。

<次年度の取組予定>

- ・ 事業の継続
- ・ 新規利用者の確保（広報・周知等）

広報チラシ



施策③③ 公共交通への利用転換の意識啓発（モビリティ・マネジメントの実施）

鉄道関連ノベルティの配布

<取組状況>

- ・ 鉄道関連事業実施時にノベルティを配布
- ・ 鉄道関連事業以外の事業でも配布

<効果>

- ・ 町民の鉄道への関心及びマイレール意識の醸成に繋がる。

<課題>

- ・ 町民意識の更なる醸成

<次年度の取組予定>

- ・ 新たなノベルティの作成について検討

各種ノベルティ



利用者に好評だったトートバッグ、
フォールディングファン、ペットボ
トルホルダー



小学生未満の乳幼児を対象に配布し
たプチ電車シリーズ

基本施策 4.公共交通を安全安心に利用できる環境の整備

施策⑭ 鉄軌道車両、バス車両、タクシー車両のバリアフリー化

低床化車両の導入

<取組状況>

- 保有車両89台のうち、53台に低床化車両（ノンステップ）を導入済（低床化率59.5%）

<効果>

- 高齢者等の利用者の安全性が確保できた
- 利用者の声
「乗り降りがスムーズになって利用しやすくなった」
「買い物等で日常的に利用するので助かる」

<課題>

- 導入経費が高額であること

<次年度の取組予定>

- 国、県の補助を受け、車両購入費用を縮減しながら、引き続き低床化車両の導入を進める



基本施策 9.公共交通を担う人材の確保

施策⑲ バス運転手・タクシー運転手確保に向けたPR 活動の実施

バス運転手募集説明会・体験会の実施 定住促進の取組

<取組状況>

- 実施日：①令和6年 6月23日（日）
② 8月25日（日）※
③ 11月10日（日）※
④ 12月 1日（日）
⑤令和7年 1月19日（日）
⑥ 3月23日（日）※ [予定]

※女性限定

- ◆但馬地域外の参加者には定住促進の取組について説明
- ・場 所：但馬空港ターミナル駐車場
- ・参加機関：ハローワーク、但馬ふるさとづくり協会
ハッピー企画HUB TON TON

<効果>

延べ52人参加
バス運転手経験者の方も一定数あり、採用につながれば即戦力となる。

<課題>

- 定年退職運転士の補充
- 若年層の運転士の採用が極めて少ない

<次年度の取組予定>

- 次年度以降も関係機関と連携して実施を検討する。

